

2021/04/11

ヨハネの福音書 講解メッセージ④⑤

『助け主』 ヨハネ 14:21-14:31

■神の愛にとどまりなさい

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。」

(ヨハネ 14:21)

この御言葉だけを読むと、戒めを守らなければ神に愛されないのかと誤解するかもしれませんが、決してそのようなことはありません。神の愛は、太陽の光と同じように、誰の上にも無条件に注がれています。

では、なぜ戒めを守らなければならないのでしょうか。

「わたしの戒めを保ち、それを守る人」とは、「中心にとどまる人」という意味です。私たちに人間には、イエス・キリストという中心があります。イエス・キリストにとどまり、神の恵みを受け取る人には、神の愛が流れ出るようになる、とこの御言葉は教えているのです。

川の流れをイメージしてみましょう。川の流れから外れたところにいる人は、その水を飲むことはできません。川の水を飲むためには、川にとどまる必要があります。神の戒めを守り、自分の立ち位置を中心に持つことが、神のいのちの川の流れにとどまるということです。そうすれば、そこに流れている神の愛をそのまま受け取ることができます。戒めを守ったら神が愛してくれるのではなく、川に入らなければその流れを受け取ることはできないのです。神の愛は誰に対しても流れています。

神の戒めを守るとは、神の言葉にとどまることです。神の愛の流れに足を入れて中心にとどまると、神の愛が流れてきますから、私たちを通して神が現れるようになります。そして、その愛に励まされ、平安にとどまることができるようになるのです。神の川から外れて、この世界を自分の中心に置くなら、私たちを通して神が現れることはなく、平安もなくなります。それで、私たちは見える世界にしがみつくようになり、神の流れとはかけ離れてしまいます。私たちの世界は有限で、神は永遠だからです。

■なぜ神はご自身を現さないのか

「イスカリオテでないユダがイエスに言った。「主よ。あなたは、私たちにはご自分を現そうとしながら、世には現そうとなさらないのは、どういうわけですか。」

(ヨハネ 14:22)

ユダにはイエス様の言葉の深い意味が分かりませんでした。イエス様はすべての人にご自分を現しておられるのですが、川の流に立とうとしない人にはわかりません。

聖書は、被造物を通して神がおられることは明らかにされていると教えています。私たち人間がそもそも神に似せて造られていますから、神は現れているのです。神を認めようとしない人、知ろうとしない人にはわかりませんが、中心に立つことで、それはイエス様だとわかるようになるのです。

神は、人間をロボットのように造ることをせず、人格を与え、意思を持たせてくださいました。それは、神と友としての信頼関係を築くためです。神と向き合えば、神の愛を食べられるように、神は人をご自分に似せて造られたのです。

「イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。」(ヨハネ 14:23-25)

「誰でもイエス様を愛する人は、私の言葉を守るから、その人に神が現れるようになる。」とイエス様は言われました。現していないのではなく、現しているのだけれど、中心にとどまろうとしないから見えない——これが、先ほどのユダの質問に対するイエス様の答えです。

■とどまりたくても、とどまれない

さて、イエス様は、中心にとどまりたくてもとどまれないという私たちの現実をわかっておられたので、助け主を与えてくださいました。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」(ヨハネ 14:26)

「人間とは何か」を考える学問を哲学と言いますが、長い歴史をかけて考え抜いた結果ようやく出た答えは、聖書の教えと一致したものでした。人間は神のいのちで支えられているということです。

私たちの中には神のいのちがあって、私たちに神の思いを発信し続けています。その思いを基準にして、人は物事を判断しています。良いことと悪いことがあることも、永遠や神があるということも、言葉では説明できないのですが、わかるのです。誰もが良心を持っていて、それが人の土台になっています。この神のいのちを宿すのが体で、その役割は、神が発信する思いを経験して確認することです。アダムとエバが造られた時には、人間は永遠性だ

ったので、そのまま神を確認することができました。しかし、悪魔の仕業で死が入り込んだ結果、神の思いを知りながら、確認できない状態になりました。永遠を有限で確認することはできません。人は、本来神の思いをもって生きる者として造られ、神の愛を知っているのに、この世界では神の思いを確認できなくなってしまったのです。

この世界はとにかく比較の世界で、常に人と比べて生きています。しかし、神の世界に比較はありません。私たちはそのことを知っているのに、現実には比較があつて、神の愛を経験することができず、腹が立つし、嫉妬もします。この矛盾に満ちた人生が、私たちの現状です。そのため、今の私たちには、常に不安が横たわっています。いのちや愛を知っていながら確認できず、神のほうに行きたくても、有限に引っ張られて、どっちつかずになってしまい、誰もが不安という苦しみを抱えています。

■助け主

そんな私たちに、神は中心である神の思いに戻り、神の愛を受け取りなさいと言われます。さらに、自分では戻ることができない私たちのために、神は私たちに助け主を与えてくださいました。それが聖霊です。

しかし、今の体では神の思いを確認できないため、聖霊の助けをダイレクトに受け取ることができるように、神は私たちに永遠のいのち、つまり、霊のからだを着せてくださいます。イエス・キリストを信じることができたのは、その結果です。神がいることはわかっていたのですが、この世界ではどれが本物の神か確認することができませんでした。しかし、霊の体を着せられたおかげで、その神はイエス・キリストだということが、確認できたのです。

それが、助け主が神の言葉を思い起こさせてくれるということの意味です。確認さえできれば安心です。理屈抜きでイエス・キリストが三日目によみがえったと信じることもできるのです。霊の体を着せられていない人は、信じることはできません。

私たちは助け主の力によって、信じるようになるようになり、中心に向かって進み始めました。しかし、私たちが中心に向かって行っても、ここまでという限界はありません。どこまでも神に近づくことができます。さらに深く神の言葉を経験し、確認できるのです。これが「信じる」ということであり、「信仰」です。信仰とは、聖霊に捕らえられている状況です。すると、困難にぶつかるたびに、神の言葉を経験することができ、神の助けやいやしを受け取って、ますます神の言葉が真実であることを確認できるようになります。それは、聖霊が私たちをとりなし、信じられるように導いてくださるからです。

■「理性と信仰」

人間は、理性で納得することで神の言葉にとどまろうとしがちです。たとえば、イエス様の奇跡を合理的に解釈しようとして、イエス様のカリスマ性を装飾するための表現だなどと

解釈したりしますが、それは、理性にとどまっているだけで、信仰ではありません。

助け主の力を借りてとどまるとは、理性にとどまるのではなく、信じることです。神の言葉は納得するものではなく、信じるものです。納得出来たら信じるというのは、理性にとどまっているのであって、信仰ではありません。聖霊の助けを借りて信仰にとどまることが必要です。

なぜなら、理性とは、有限の世界の物差しなので、有限を超えることはできません。私たちがとどまろうとしているのは、永遠の世界です。それは、信仰でしかできません。それを助けるのが聖霊様です。

私たちの理性では、無限も永遠もただの概念で説明することはできません。しかし、永遠や無限という概念なしには、この世界を説明することはできません。私たちは有限の世界から一步も外に出ることはできません。つまり、神を知ることは私たちの理性、知性では不可能なのです。私たちが戻る中心は、有限の世界ではなく、永遠の世界です。ですから、有限の世界を飛躍する勇気が必要なのです。これが信仰です。私たちが神の前に自分の無力さを知り、限界を認めてへりくだる時、飛び出す勇気を持つことができます。自分は強い、何でも知っていると思うときには、何もできません。

聖霊の働きによって初めてできるのだということがわかります。

私たちの体は有限のことしか経験できませんから、神を信じられないのが当然です。しかし、私たちの潜在意識が神の呼びかけに応答するとき、霊のからだに着せられて、信じられるように助けられるのです。いま私たちが神を信じることができるのは、そのおかげです。人の努力によるものではありません。神の言葉を信じられるようになりたいのであれば、聖霊様が助けてくださいます。ただ「神様…」と求めるだけでよいのです。

「知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」（I コリント 1:20-21）

神の言葉は永遠ですから、理性で聞くと、非常に非科学的で愚かなものにしか聞こえません。理性は、有限の世界でしか通用しないものだからです。神は、理性で神を知るのではなく、信じる者が救われるように、定めておられます。そして、信じることができるように、助け主を与えてくださったのです。私たちの理性では神を知ることができないのですが、霊のからだを着せられたので、神の言葉を確認したければ、確認できるようになったのです。それで、困難にぶつかった時に祈ると、聖書の教えは真実であることが確認できます。こうして、平安を手にすることができるのです。

■神はあなたに平安を与える

「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。『わたしは去って行き、また、あなたがたのところに来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜ばずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。」(ヨハネ 14:27-28)

私たちは、神に霊のからだを着せられ、聖霊が助けてくださるようにしていただいたので、神の言葉にとどまることができるようになりました。だから、平安を得ることができるから、心配しなくても大丈夫だと、神様は励ましてくださっているのです。「神の義」とは信仰のことです。イエス様が見えなくなることで、信仰でしかイエス様を知ることができなくなるのですが、私たちはそれを喜ぶようになるでしょう、とイエス様は言っておられます。

なお、ここに「父は私より偉大な方」とありますが、イエス様は人間として来られたために、このような言い方をしておられます。三位一体の神はそれぞれ役割が違うだけで、そこに上下関係はありません。

「そして今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行っていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」(ヨハネ 14:29-31)

神のなさることはすべて、私たちが信じることができるようになるためです。

イエス様は、「まもなく死の力を持つ悪魔が来るから立ちなさい。」と言っておられます。イエス様は、ご自分が十字架に架かることを語っておられますが、実は、その者はイエス様に対して何もすることはできません。神の十字架の愛はすべてのみこんでしまいますから、何も心配しなくてもよいことを弟子たちに教えておられます。「立ちなさい。ここから行くのです。」という言葉には、イエス様が一貫して弟子たちに語っておられる、「大丈夫だから」という励ましが込められています。「永遠のいのちも与えたいし、助け主も送ってあるし、あなたがたは死からいのちに移されたから、わたしが守るから大丈夫。だから、歩いていきなさい。」と、イエス様は励ましてくださっています。

小さな子どもを守り安全を確保する父親のように、神は私たちを守っておられます。でも、子どもはそのことに気づいていません。旧約時代、預言者エリシャの召使が恐れたとき、エリシャが祈ると、火の馬と戦車がエリシャたちを守っているのが召使に見えるようになりました。私たちは見えないだけで、神の安全地帯に入れられているのです。「だから、大丈夫」

というのが、一貫したイエス様のメッセージです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じている者は、永遠のいのちを持っていて、さばきに会うことがなく、死からいのちに移った状態にあるのです。」(ヨハネ 5:24) (直訳)

新改訳聖書第3版では、「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」とありますが、正確には上記のような訳になります。

つまり、永遠のいのちはこれから得るものではなく、私たちはすでに安全地帯の中に入れているから、心配することはないと、イエス様は宣言しておられるのです。イエス・キリストを信じている者は永遠のいのちを持っていて、死からいのちに移されました。これが神の国が来たということです。私たちはすでに神のいのちに移されていて、今、永遠が実現しています。私たちはその中心を手にしており、いつも中心に戻れるように、神の言葉が信じられるように、聖霊様が私たちに働きかけ助けてくれています。だから、どんなにつらくなくても、神に頼るなら、ちゃんと神の言葉が信じられるようになります。これが私たちの歩むべき道です。こうやって私たちは、ますます中心に近づき、神の言葉が信じられるようになっていくのです。それに応じて、神の平安がますます増し加わっていきます。これが安息に至るといふ神の永遠の契約です。あなたはすでに霊のからだを着せられています。このことを忘れないでください。